

# 令和7年度嘉麻市教職員研修会

## 部落問題学習 一基礎編3一

令和7年8月1日 15:15～16:00



福岡県教育庁筑豊教育事務所

人権・同和教育室 主任指導主事 田丸 めぐみ

# 【法務省人権擁護機関 令和7年度啓発活動強調事項】

女性の人権

こどもの人権

高齢者の人権

障害を理由とする  
偏見や差別

部落差別（同和問題）

アイヌの人々に対する  
偏見や差別

外国人の人権

感染症に関連する  
偏見や差別

ハンセン病患者・元患者及び  
その家族に対する偏見や差別

刑を終えて出所した人及び  
その家族に対する偏見や差別

犯罪被害者及び  
その家族の人権

インターネット上の  
人権侵害

北朝鮮当局による  
人権侵害問題に対する認識

ホームレスに対する  
偏見や差別

性的マイノリティに関する  
偏見や差別

人身取引

震災等の災害に起因する  
偏見や差別

ゲノム情報（遺伝情報）に  
関する偏見や差別

「啓発活動強調事項」（[www.moj.go.jp](http://www.moj.go.jp) 法務省ホームページ）に基づく。

# 部落差別の解消の推進に関する法律

(部落差別解消推進法) 平成28年12月施行

# 部落差別の解消の推進に関する法律

## (目的)

第1条 この法律は、現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものであるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題であることに鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制の充実等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的とする。

# 部落差別の解消の推進に関する法律

(教育及び啓発)

第5条 国は、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うものとする。

2 地方公共団体は、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の実情に応じ、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努めるものとする。

部落差別を解消するための教育  
及び啓発の必要性

# 【福岡県部落差別の解消の推進に関する条例（平成31年3月施行）】

## 条例の概要

- 1 基本理念や県の責務を明記
- 2 部落差別の解消に向けた施策を推進
- 3 結婚や就職に際しての部落差別事象の発生を防止



部落差別のない社会の実現に向け、基本理念や県の責務、教育・啓発などを規定

# 県民意識

## 福岡県 人権問題に関する 県民意識調査結果 令和4(2022)年

### 人権問題に関する県民意識調査

結果報告書-概要版-



令和4年3月  
福岡県

ヒューマン博士  
(福岡県の人権啓発キャラクター)

# 同和問題に関する指導

## 部落差別

### 実態的差別

人々の生活の上に現れている差別

生活環境、教育文化水準・不安定な就業 など

### 心理的差別

人々の心の中に潜む差別意識

差別的な言葉や態度で相手を蔑んだり、偏見や先入観から結婚や交際を避ける など

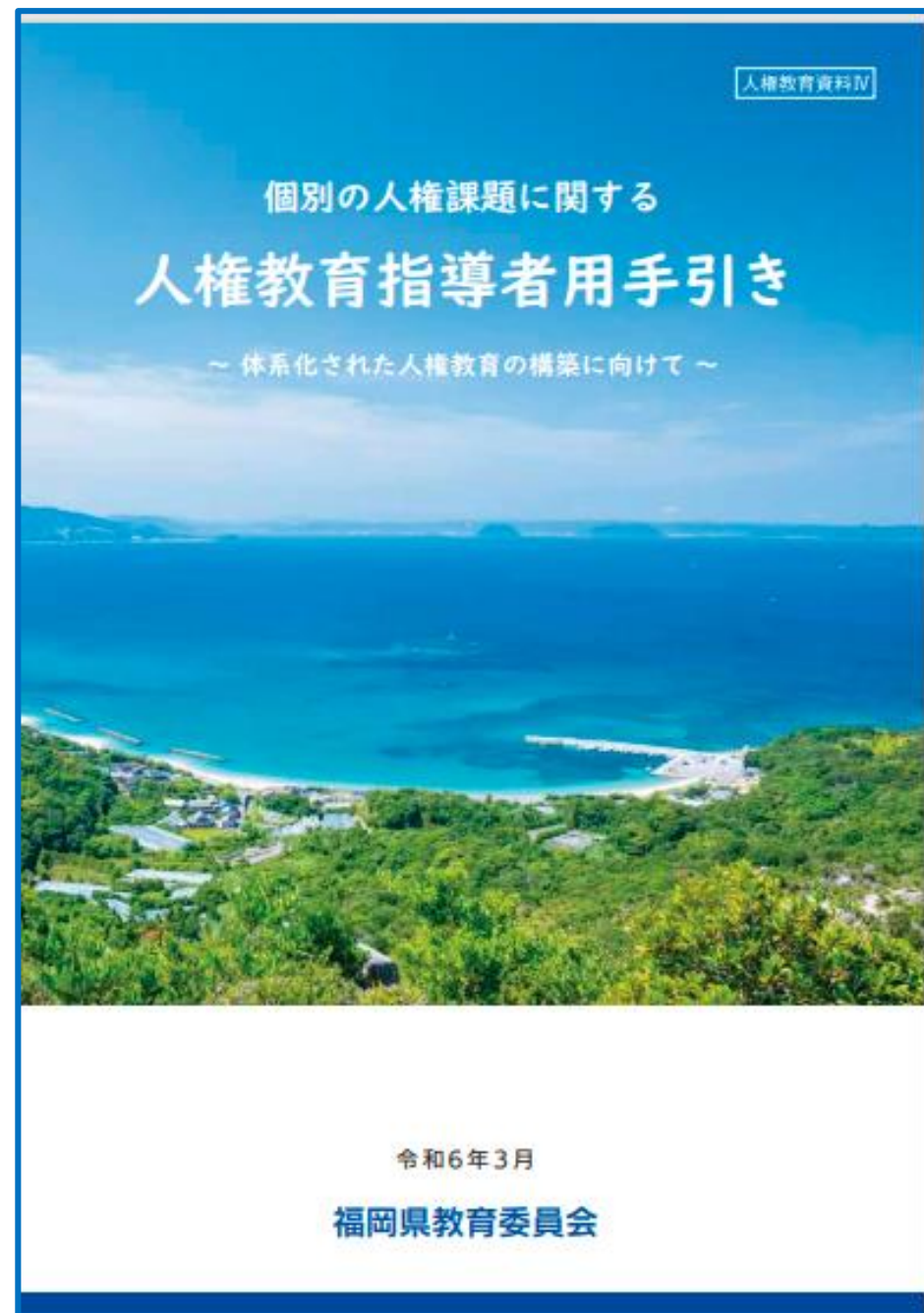


# 同和問題に関する指導

## 個別の人権課題に関する人権教育指導者用手引き ～体系化された人権教育の構築に向けて～

### 第1章 体系化編

### 第2章 実践編



ある先生が個別の人権課題についての授業を行った後のことです。その先生が当該人権課題に関わる当事者の生徒に授業の感想を聞いてみたところ、このような声が返って来ました。

「ここにいない人たちのことを話しているようで、自分がいないことになっているように感じた。」

その先生は、差別について考えさせる際に、自分が「差別されている人たちはね…」と表現したことが、もしかしたらそのような感想を抱かせた原因ではないかと思いました。

先生としては意図していなかったのですが、結果としてその生徒に疎外感を与えてしまいました。

どうしたら良かったのでしょうか。

## 自分事となる授業

個別の人権課題に関する学習を進めるに当たり、児童生徒やその保護者、親族等の中に、当該人権課題の当事者等となっている者がいることも想定されます。学習で扱う内容や表現等に対する児童生徒の反応に留意するとともに、日頃から適切な児童生徒理解や保護者理解に努め、その願いを把握し、家庭・地域等と連携を図ることが大切です。一方、教職員の無責任な言動が、児童生徒の間に新たな差別や偏見を生み出すことがあることを認識する必要があります。

人権教育研修会資料集p.22（福岡県教育委員会 令和4年4月）

ある先生が授業の中で、自分たちが何気なく使っている言葉が相手の心にどのような影響を与えるのか考えさせていた時のことです。「言われて嫌な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりする言葉」について、児童に尋ねたところ、「バカ」「死ね」「キモイ」など、教室の中に様々な言葉が飛び交い、その中で一人の児童が「ガイジ」と発言しました。

しかし、授業はそのまま「言われて嬉しくなったり、元気になったりする言葉」を考える次の学習活動に進みました。

## 隠れたカリキュラム ➡ ロールモデルへ

児童生徒は、日々の生活の中で、教師が意図する、しないに関わらず、教職員が児童生徒に対してどういう態度で接しているか、何か問題が起きたときにどのような言動をとっているのかを見ながら、たくさんのがらを学び取っています。

人権教育研修会資料集p.12(福岡県教育委員会 令和4年4月)